

「一期一会」 出合いを大切に

株式会社 安藤・間
代表取締役社長

野村俊明

＜私が身を置く建設業の現状について＞

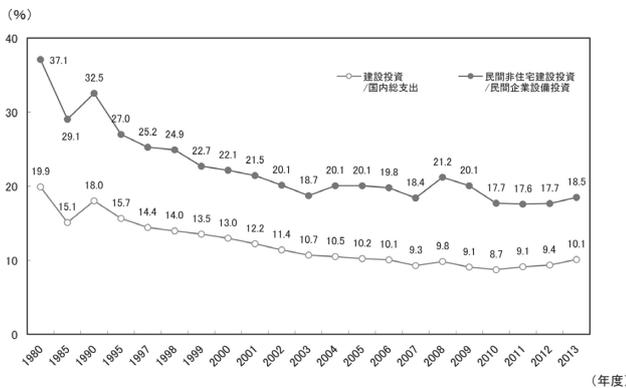
はじめに建設業の推移を説明いたします。まず国内総支出に占める建設投資の割合は、1980年19.9%から、2010年8.7%と、この30年間で半分以下となりました(図1)。建設投資金額では1992年の84兆円から2010年の41.9兆円へと半減しました(図2)。また建設業就業者は1997年685万人から2013年499万人へと16年間で186万人減少しています。(図3・4)

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。震災復興需要により、建設投資金額は2013年には48.7兆円と2010年から16%増加しましたが(図2)、就業人口の急激な減少と仕事量の急激な増加により、復興が思うように進んでいないのが現状です。

当然ですが需要と供給の関係から、職人さんの手間

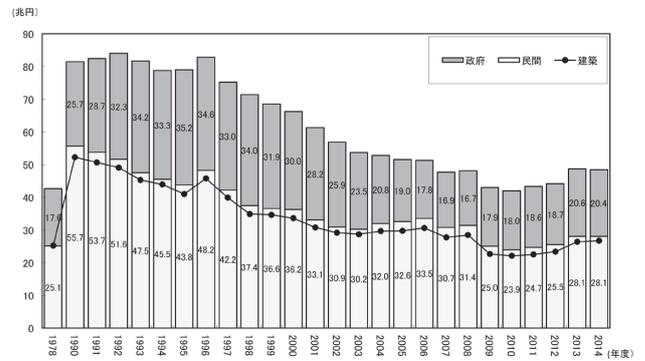
賃が高騰しています。一部は行き過ぎた面がありますが、私は悪いことではないと思っています。典型的な3K職種(危険、汚い、きつい)にもかかわらず給料があまりにも安すぎたのです。職人さんのなり手がなかったのも当然です。さらに憂慮すべきことは、建設を学ぶ学生に建設会社の人気がないことです。ある大学では土木建築を専攻し、就職先に建設会社を選んだ学生は、4回生・院生あわせて15%しかいないそうです。私の時代からは、考えられなかった状況です。

厳しい話をいたしましたでしたが、建設業界にも明るい兆しがいくつか見えてきています。一つ目は本来あるべき姿に戻りつつあることです。それは「ものづくりを通して社会に貢献しているのだ」というプライドを持てるようになってきたことです。その大きな要因は、



資料出所:内閣府「国民経済計算」、国土交通省「建設投資見通し」

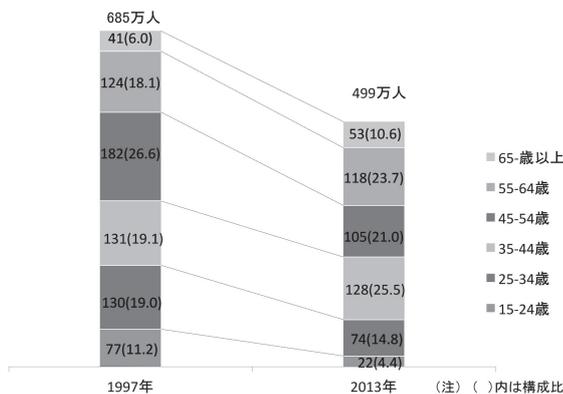
図1 建設投資率の推移



(注) 1. 12,13年度は見込み額, 14年度は見直し額
2. 政府建設投資のうち、東日本大震災の復旧・復興等に係る額は、11年度1.5兆円、12年度4.2兆円と増込まれている。これらを除いた建設投資額は11年度40.8兆円(前年度比3.0%減)、12年度40.7兆円(同0.6%増)。

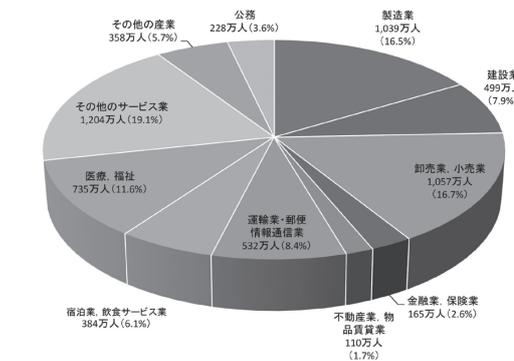
資料出所:国土交通省「建設投資見通し」(2014年6月発表)

図2 建設投資の推移



資料出所:総務省「労働力調査」

図3 建設業就業者数の年齢階層別推移



2013年就業者数 6,311万人(100%)

資料出所:総務省「労働力調査」

図4 産業別就業者数

業界全体に適正な利益が確保できるようになったことです。当社も新会社として利益確保ができ、久しぶりのベースアップを実現することができました。

次に女性の活躍です。以前、女性の技術職は設計部門に偏っていましたが、最近では土木建築ともに現場志望の女性が急速に増え、確実に戦力になっています。海外で現場所長として活躍する女性も現れ、頼もしい限りです。今後もダイバーシティの流れを強力に推進するつもりです。

<創業100年を超える建設会社の合併を経験して>

初対面の異業種の人に「安藤・間の野村と申します」と挨拶しますと、ほとんどの人は困った顔をされるので、残念ながら「建設会社の安藤・間です」という習慣になってしまいました。2013年4月1日に安藤建設と間組が合併し新聞広告も出しましたが、確かに建設と組がなくなれば何の会社かわかりません。

合併前の会社紹介をします。まず私の出身会社である安藤建設は、1873年東京・神田で創業し、当時の先進工法であったレンガ建築を手がけました。帝国ホテルや中山競馬場の実績がありますが、大阪大学豊中キャンパスの過半数の建物を手がけていますので、工事中の看板を見かけた方も多いと思います。合併相手の間組は、1889年門司で創業し、九州の鉄道工事を手がけました。土木を得意とし、黒部第四ダム、伊勢神宮の宇治橋などが有名です。

詳しい合併の話を始めますと、枚数がいくらあっても足りませんので、ポイントだけにしたいと思います。対等合併でしたが、実質的に対等合併はありえません。存続会社をとっても、いずれかに決めなければなりません。社名もどちらを先にするか悩みました。

いろいろありましたが、私自身が心がけ、社員に訴えたことが二つあります。まず「良い会社」にすること。良い会社の第1条件は倒産しないこと、第2は普通の社会生活を営むことができる給料が支給できること、第3はやりがいのある仕事があり、成果に対ししっかり評価すること。以上当たり前のことを訴えました。次に「お互い良いところ探しをしよう」と言い続けました。社風のまったく違うものが急に一緒になれば、戸惑いや不満も出てきます。夫婦も元は他人、相手の欠点ばかり見ると喧嘩が絶えません。円満のコツは相手の良いところを見る努力だといいます。その結果、謙虚になり自分の欠点も見えてきます。社員の融合も

道半ばですが、間違いなく良い方向に進んでいると思っています。

<私自身のこと>

兵庫県明石市で生まれ、小中高と地元の公立校で団塊の世代の最後の学年の中で、また姉兄の中で揉まれて育ちました。私の人生を振り返ってみますと、自分の意志で行動できたのは1割、9割は大きな流れの中で自分なりのジャッジをしながら生きてきたという認識です。血液型Bの末っ子は、要領がいい典型だとよく言われます。血液型は当てになりませんが、末っ子は兄や姉が叱られているのを見て、叱られない術を身に付ける有利な立場であることに違いありません。性格によるものか「場の空気」をいつも大切にしています。お酒が飲めない人に強引に飲ませたり、歌が苦手な人に無理やり歌わせたりするなど、まったく理解できません。

世間話になってしまいましたが、大切にしている言葉は「一期一会」です。お茶席の言葉だそうですが、たった一度の人生、人との出会いを大切にしたい、という意味です。還暦を過ぎ、人生の4コーナーを回ると言葉の重みが増してきました。私は社交的とはいえない性格ですが、最近はゴルフでも会食でも初めての人との出会いを、楽しく感じるようになってきました。常に学ぶ姿勢で、出会いを大切にしますといくつになっても得ることが数多くあります。聞く耳を持たなければ相手は本音を出しません。本音のない会話は時間の無駄とさえ思うようになってきました。

<おわりに>

紙面が限られていますので筆をおきますが、最後に一言。人との出会いも大切ですが本との出会いも楽しいものです。読書は乱読ですが、強いて好きな作家というと塩野七生さんと宮部みゆきさんです。塩野さんからは、深い歴史認識から導かれる状況判断の大切さを学びました。また宮部さんのジャンルの幅広さに感心するとともに、理屈抜きに面白いので全作品読んでいます。いろいろ恥ずかしげもなく正直に綴ってきましたが、いつも先入観を持たず、本音を出しながら、今後もいろいろな出会いを楽しみたいと思います。

(建築 昭和47年卒)